

平成22年度豊かなむらづくり全国表彰事業

農林水産大臣賞

日本政策金融公庫京都支店農林水産事業統轄賞

ながたに ちく

長谷地区（京都府舞鶴市）



ゆず苗木の植栽



長谷地蔵祭1日カフェ

（概要）

（１）むらづくりの動機・背景

長谷地区は、平成18年には9世帯14名、高齢化率71.4%のいわゆる限界集落となり、集落の維持そのものが危機的な状態に陥った。このままでは、数年後に村が消滅するという強い危機感から、次の世代に何とか長谷集落を残していこうという思いを住民が共有し、集落活性化に向け今できることとして、まず何とか田畑を荒らすことなく次世代に引き継いでいくため、「ゆず」の植栽から取り組みが始まった。

（２）むらづくりの内容

- ・地元住民と若手農作業受託組織「若い衆でやろかい」や自主応援団組織「We Love 長谷」、森林ボランティア組織「山悠遊」、行政が連携協力して、ワークショップや都市農村交流活動に取り組みを進め、集落活性化に向けて「長谷ゆずの里構想」を基軸として、都市住民とのふれあいを通じて、生き甲斐やうるおいの構築。
- ・ゆずの植栽活動により、遊休化した農地をゆず畑として再生。
- ・ゆずの収穫が本格化を向かえた段階では、周辺地域の女性地域活性化グループと連携して商品開発、販売を検討。
- ・新規定住者に対する受け入れ意識を高め、空き家を提供して2世帯5名の新規定住者を迎え入れ。
- ・Ｉターン新規就農者が、耕作を始めたことにより耕作放棄地が解消。
- ・水稻について、「清流の里長谷米」としてマスコットキャラクター「ながたにクン」シールを張り、都市農村交流活動参加者等への直売による有利販売。
- ・新規定住の半農半音楽家族による長谷集落PRのためのテーマソング「長谷小唄」、「We Love 長谷」のCD作成や、交流会での生演奏披露。